



国労中国

国鉄労働組合
中国地方本部

No. 1

2026年4月21日

発行責任者

倉下 文明

編集責任者

青山 准三

中国地方本部結成大会を開催

要求も組織も前進させるリ・スタートの大会に

去る4月4日、中国地方本部結成大会を岡山国際交流センターにおいて開催した。この大会は、第97回定期全国大会及び第39回西日本本部定期大会における規約改正に基づき、中国地本結成準備委員会で議論を進め、米子・岡山・広島地方本部を統合し、新たに中国地方本部を結成したものである。



小林委員長
岡山地本

大会は、まず小林委員長（岡山地本）の開会挨拶に始まり、議長に藤江代議員（岡山地本）を選出し進めていった。準備委員会を代表して佐々木委員長（広島地本）が中国地本結成にあたり意義



佐々木委員長
広島地本

と課題について触れ、あいさつした。その要旨は、アメリカとイスラエルがイラクを空爆し、今も多くの死傷者を出す戦争状態に全世界から反対の声があがっている問題について。二つ目は2026年春闘の中間総括であるが3月19日時点でJR7社が定昇の完全実

施とベアの有額回答を行った。昨年同様に会社間格差が拡大する内容であった。しかし、その過程で3名の組織拡大が近畿地本から寄せられたこと。三つめは、芸備線の状況について国が行司役でしかないことに違和感があり、中国運輸局に要望する機会を設けていく。最後に結成大会の歴史的意義についてであるが、時代は変わっても1946年当時の国労の決意と志は今も

ゆるぎない。要求も組織も前進させるリ・スタートの結成大会になることを祈念する。



植田委員長
西日本本部

続いて西日本本部の植田委員長が26春闘・組織拡大の取り組み・芸備線をはじめとするローカル線廃止反対の取り組みなどについて挨拶した。

経過と方針を提起

経過報告並びに当面する闘争方針案の提案を倉下委員長（米子地本）が行い、代議員からの質疑・討論を受けた。地方本部規約と旅費規則の提案を吾郷書記長（米子地本）が行い、全体で確認した。



倉下委員長
米子地本



新執行部

執行委員長

倉下 文明（米子）

執行副委員長

勝田 哲也（岡山）

書記長

佐々木隆一（広島）

執行委員

安部 豊（米子）

青山 准三（岡山）

長尾 保宏（広島）

会計監査

渡邊 透（米子）

三宅 明（岡山）

3地本から9名の代議員が発言

労働条件改善・春闘・ローカル線問題・組織拡大など

質疑・討論では、米子・岡山・広島地方本部より9名の代議員の発言があった。

(漆迫代議員・米子地本)

駅の無人化などの施策により高齢者は切符も買いにくく、利用しにくい状況にあり鉄道利用が激減している。今年4月から江津駅が巡回駅で無人となり、市議会でも問題となった。浜田では、春闘時期に現場交渉を行ってきた。駅も要員減となり病んで休んでいる人もいる。こうした問題についても現場交渉していく。

(長尾代議員・広島地本)

春闘について、中国ロジスティクスが、1万3千円を回答した。関西貨物協で総括していく。

広島車両所に被爆の建物が残っており、国労本部から貨物会社に建物を残すように要求している。地方本部貨

物協議会でも交流含めて一杯やっていく。

(岡田代議員・米子地本)

木次運転区は国労4名で今後の国労運動について話をしていく。木次線も存廃の危機にある。地域公共交通を守り、雇用と誇りを守る使命がある。ローカル線乗車体験や自治体との意見交換などを行い木次線活性化に取り組んできたし、これからも行動していく。

(小林代議員・岡山地本)

メンテックの春闘交渉について、社員と準社員と賃金改訂時期が異なっており、同時期を求めてきた。新型車両導入に伴い、汚物取替手当が減るので手当の新設を今後求めていく。組合費等の徴収に関する職場討議が出されているが、それなりの分かりやすい説明を求める。

(廣中代議員・広島地本)

広島自動車分会で現在は整備をしている。4名の組合員で活動している。鉄道を無くしバス転換しても廃止される。ローカル線は残さなくてはならない。楽しく活動していく

(渡邊代議員・米子地本)

境港駅も無人にされたが利用者も多く、インバウンドの関係もあり、駅員の配置は必要である。これからも皆さんと共に頑張っていきたい。

(定広代議員・岡山地本)

備中神代駅で貨物が早着する不安な事象が起きたが、中国地本で交渉してもらいたい。保線職場では、大管理室化が提案されているが再交渉を行う。交渉などを他労組に示し、組織拡大にもつなげていく。

(福本代議員・広島地本)

可部線廃線に対して自転車パレードや沿線住民との大パレードをしてきた。日本被団協がノーベル平和賞を

受賞した。8月2日の第52

回国鉄原爆死没者慰霊祭への参加を求める。JR九州では、75歳まで1年更新で採用するとしており、西日本でも制度改善すべきである。賃金アンケートがQRコードになり150%が80%に減った。紙とQRコードを使って、アンケート集約を増やしていきたい。

(山田代議員・米子地本)

特急ワンマンが導入される1年となる。4両ワンマンであり、迷惑行為やトラブルの対応ができない現状である。

227系の車両が導入され、ワンマン改造もされず走行している。会社は、ローカル線への経営意識がない。サービスタワー・安全問題のあるワンマン廃止・全列車ツーマン運転を求める。

9名の発言を受け、植田委員長と青山書記長の答弁の後、佐々木委員長が集約を行った。大会宣言を青山書記長(岡山地本)が行い、閉会挨拶を勝田副委員長(岡山地本)が行った後、倉下新委員長の団結ガンバロで大会を終えた。

〈集約要旨〉

9名の代議員から発言を受けた。
職場では、安全対策会議などがある。米子での現場長交渉など含めて、国労が積極的に参加して意見を言い、改善運動をしていくことが必要。
団体交渉の進め方の問題であるが、米子・岡山ではダイ改などの見直し要求交渉を恒常的に進めている。中国地本として、踏襲した形で進めていく。広島車両所の被爆建物の保存の問題、ローカル線を守る闘いなどを中国地本でも引き続き進めていく。
財政規模が少なくなるので、地区本部とも連携して運動に積極的に参加できる体制を執行部で検討する。
ローカル線の廃止は届出すればできるが、JRは自治体の承認を求めている。運動の到達点であり、今後も運動を進めていく。
再雇用者の問題についても、改善に向けて取り組む。